

## 地球観測将来構想小委員会（第25期第4回会合）議事要旨

日時：2021年12月15日(水) 10:00-12:00

場所：オンライン（zoom）開催

出席委員：沖大幹、高薮緑、中島映至、福田洋一、藤井良一、古屋正人、村山泰啓、今村剛、岩崎晃、榎本浩之、江淵直人、岡本幸三、岡本創、沖理子、金谷有剛、佐藤正樹、重尚一、祖父江真一、高橋暢宏、中島英彰、早坂忠裕、林田佐智子、樋口篤志、松本淳、横田達也（25名）

欠席委員：佐藤薫、中村尚、笠井康子、小池真、中島孝、本多嘉明、（6名）

（以上敬称略、名簿順）

1. 議事要旨の取り扱いについては、幹事会に一任するということが承認された。
2. 日本学術会議の「提言」の定義の変更を受け、本小委員会が目標とする提出物の形について議論を行った。
  - 新たな「提言」の在り方  
「提言」の発出主体を委員会・分科会から学術会議に変更するとともに、総合的・俯瞰的な見地から、政府や広く社会に向けた提案を発表するものとするほか、「見解」という新たなカテゴリーを設けて、委員会・分科会を発出主体とし、専門的な見地から、提案を発表するものや、社会的な議論を喚起するため多様な意見を提示するものと定める、と学術会議からの資料を共有する。
  - 地球惑星科学委員会委員長への相談結果、学術会議から発出する「提言」としてふさわしいと認められるためには以下の選択肢があると示されたことを説明。
    - (1) 地球惑星圏・分科会／地球惑星科学委員会としての「見解」として出す
    - (2) 分野横断的な議論を前提として学術会議から「提言」として出せるよう学術会議執行部に相談する
    - (3) JpGU や複数の学協会（+大学，研究機関等）の連名で「提言」として出す
  - 本件に関し、学術会議第三部幹部委員からの発言があった。  
提言を多く出すのは必ずしも学術会議の役割ではない。分野横断的、トップダウン的なものを提言とし、ボトムアップ的なものは見解とするように考えられている。「提言」とするには、第3部のみでなく全ての部に入ってもらった、部をまたぐ議論を執行部は求めている。
  - この問題についてさらに議論を行った。地球観測衛星全体は大きな国家プロジェクト

であり、分野も大変広く、提言が相応しいと考える。小委員会に、他の部の委員にも入っていただくなどの方向性を考えるなどの意見があった。

3. 前回に続き、担当者を中心に 6-8 章の内容についての議論を行った。

- TF の幹事会の議論の中で、(意見の発出の中での) 提言構想において、人材育成はいつも最後だが、上位に持ってきた方がよいのではないかという意見があったことを紹介した。
- 6 章：議論の場の確立が重要。多様な分野の付加価値の創造、分野の連携。公式な議論の場がないのが問題である。  
→提言を発出し、宇宙政策委員会の基本政策委員会で意見を言ってもらえると良い。
- 7 章：社会基盤としてのデータ保存と利用推進、データの記録、オープンサイエンスの理念、論文は全保存が原則という内容の説明があった。7 章についての議論は次回の委員会で引き続き行う。

4. 次回の予定について

- 今回は、7 章の構想発表まで行った。次回は 7 章構想についての議論および 8 章を議論する。
- 次回の会合は概ね 2 月上旬を目途に日程調整する。